



# Social & Environmental Report

# 2007

社会・環境報告書



日本道路株式会社

# 日本道路のプロフィールです

## 会社概要

社名	日本道路株式会社 THE NIPPON ROAD CO., LTD
設立	昭和4年3月10日
資本金	122億円
売上高	1,305億円(2006年度)
従業員数	1,394人
上場市場	東京証券取引所 市場第1部
本社所在地	〒105-004 東京都港区新橋1-6-5
支店	東京、北関東、千葉、神奈川、中部、関西、四国 中国、九州、北信越、東北、北海道、京浜
事業内容	道路建設及び舗装工事 一般土木工事 一般建築工事 環境整備工事 スポーツ・レジャー施設工事 アスファルト合材・乳剤の製造販売 産業廃棄物処理並びに再生製品の販売 建設コンサルタント 賃貸事業 不動産取引業 建築設計・監理

## 企業ビジョン

“街づくりの総合プランナー” 日本道路です。

道づくりのエキスパートとして、70有余年。

私たちは、これまでに蓄積されてきた経験と実績をもとに、新たなフィールドを目指します。

時代の変化をビジネスチャンスとして捉えて素早く対応し、社会や顧客の満足する商品、サービスを提供することで、次代の覇者を目指すことを経営理念として掲げております。

舗装技術をベースに「安全安心」「環境」「コスト」といった時代のキーワードに対応しながら、小規模な庭先工事から高速道路等の大規模プロジェクトに至るまで、さまざまな生活基盤、社会基盤を通じて豊かな生活や社会に貢献してまいります。

私たちは、従来より培ってきた道路舗装の事業をさらに強化するとともに“街づくりの総合プランナー”として多角化を進め、あらゆるニーズにお応えするために、営業・技術・研究・設計・工事などあらゆる部門が密接に連携して私たちならではのご満足いただける提案をお届けします。

また、企業の社会的責任の重要性を認識し、環境に配慮した企業活動を行うと同時に、「CSR活動を通して、企業価値の向上を目指す」の経営基本方針のもと、法令順守ならびに社会・環境貢献を推進します。

## CONTENTS

1 会社概要

3 トップコミットメント

5 環境マネジメント

7 環境改善活動

11 環境技術開発

15 オフィス活動

16 社会的貢献

17 コミュニケーション

R&D

研究開発

Environment

環境

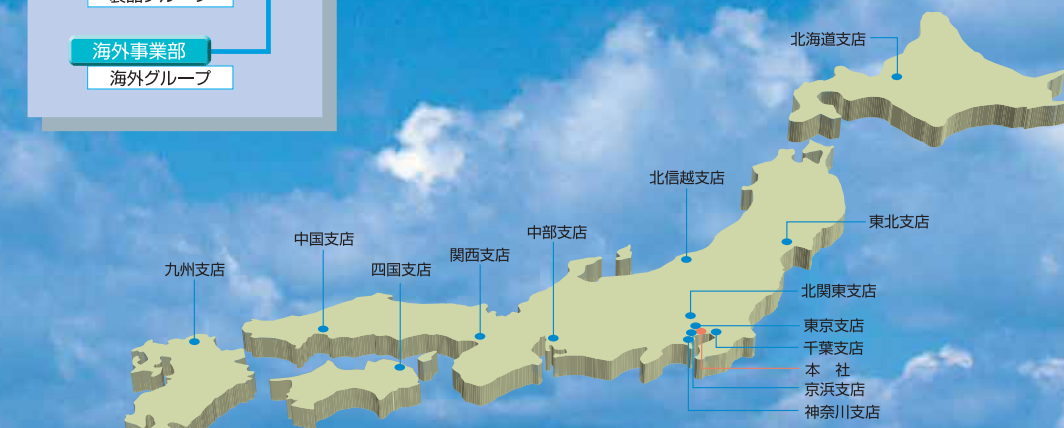
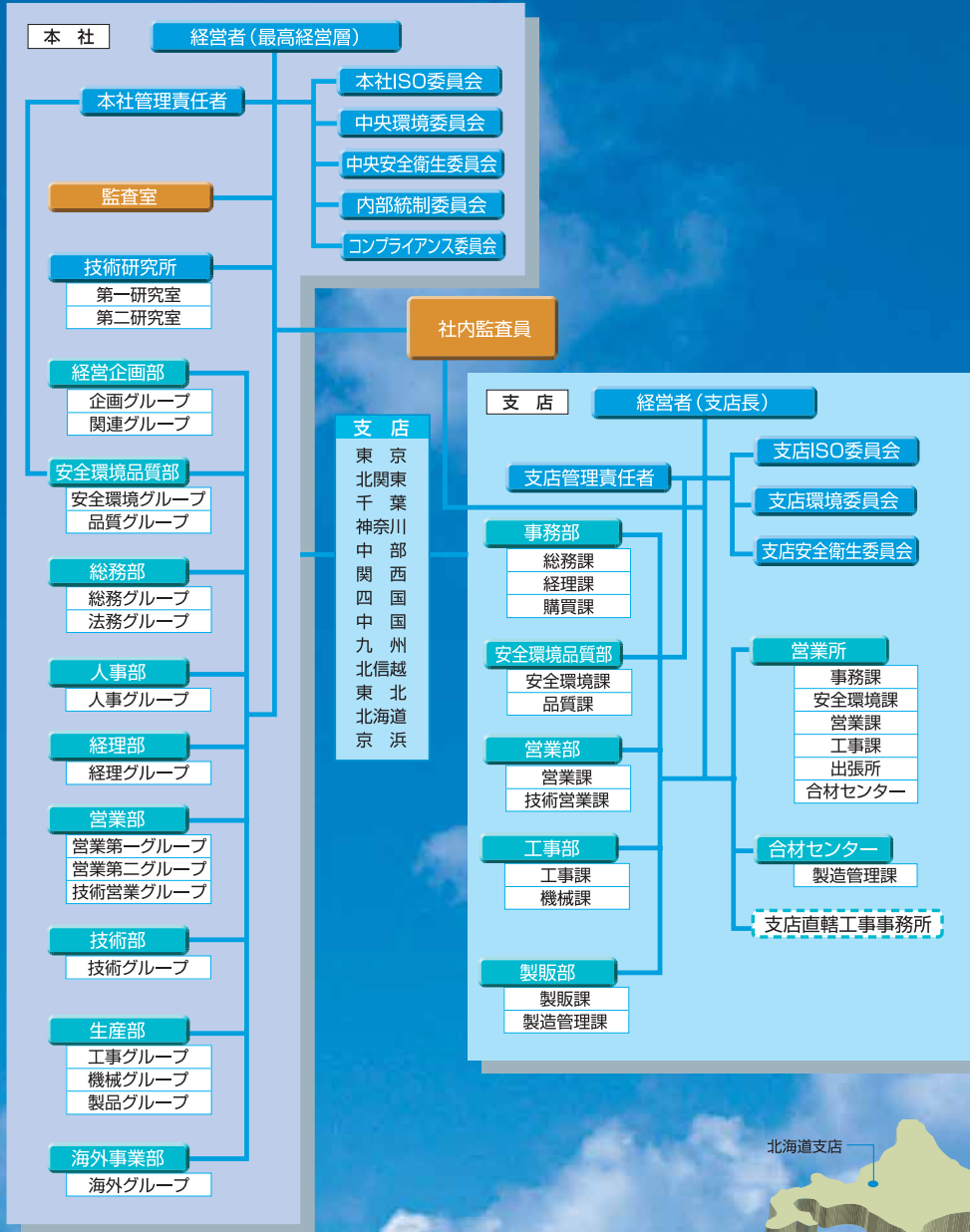
Maintenance

メンテナンス

Quality

品質

# 認証取得範囲と全社機構図 (ISO 14001およびISO 9001)



## “環境負荷の低減と環境技術開発 並びに意識の改革を進め 環境に優しい社会の実現に寄与します”



日本道路株式会社

取締役社長

三好武夫

企業は社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）を果たすことが要求されており、「法的責任」「経済的責任」「倫理的責任」「社会・環境的責任」等多くの責任を果たすことが求められています。

当社では、経営基本方針の一つに“環境に優しい社会の実現に寄与する”とコミットしており、全社にて環境改善と保全活動に取り組むことにしています。

この環境改善と保全活動を推進するエンジンとして2001年4月1日から環境マネジメントシステム（ISO14001）を導入して、「環境方針」と「環境計画」を策定し環境への負荷の少ない事業活動を推進しています。社会的に大きな意義と責任の伴う道路建設事業にたずさわっており、次のような目的に向けて継続的に改善してまいります。

- 3Rミッションの推進
- 事業における環境負荷のさらなる削減
- 環境保全技術の開発・拡販
- 社会及び環境貢献活動の推進

特に環境保全の技術開発には力を入れており、人に優しい道路、環境に優しい工法の開発に取り組む、全社員が環境に優しい社会の実現に寄与するよう意識改革をすすめてまいります。

## 社長にINTERVIEW

### 環境マネジメントシステム導入時から経営者として牽引されてきましたが、いかがですか？

環境マネジメントシステムの導入にあたっては、形骸化しないためにも本業を通じ環境に貢献する目標設定の必要性を指示し、その方向でP(計画) D(実施) C(点検) A(処置)を回してきていると思っています。導入時に比べ、環境影響を低減する活動はレベルアップしていることを実感しています。しかしながら、社員一人ひとりの環境活動に関する意識、法令の知識、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)等に対しては、今後も継続的な教育を一層充実していく必要があります。

### 環境上の課題は？また当社にできることはどのようなことでしょうか？

大都会では、ヒートアイランド現象や局地的な都市型水害等が多発しています。これらの現象を緩和する技術としては、遮熱性舗装、保水性舗装、緑化舗装など路面温度を軽減する技術があります。水害については、雨水浸

透型舗装技術、雨水流出抑制システムなどがあります。これらを活用して都市環境の改善に寄与していかなければなりません。

また、モータリゼーションの発達により、騒音・振動・水はね・大気汚染など環境悪化を引き起こしています。当社は、低騒音舗装、弾性舗装、排水性舗装など多くの環境負荷軽減技術を保有しており、技術の普及・啓蒙を図るとともに拡販することにより環境改善に寄与する必要があります。

### 今後の社会・環境貢献活動についてはいかがでしょうか？

(社)日本道路建設業協会では、社会・環境貢献活動指針を発刊している。これには、年間の活動計画のもと会員企業とともに社会・環境貢献活動を推進することとなり、当社も、社会・環境貢献活動を積極的に推進する必要があります。その一つとして、昨今、各地で地震等の災害が多発しているが、災害発生時に一刻も早く事業を再開させ、復旧支援体制を整えるための事業継続計画(BCP=Business Continuity Plan)とインフラ管理者との防災協定等についても整備していく必要があります。

### 環 境 方 針

自らの事業活動において汚染の予防、資源の有効活用を進め、環境に優しい社会の実現に寄与するよう環境マネジメントシステムを実行し、継続的改善を図る

#### <行動指針>

1. 事業活動の総ての段階において汚染の予防に努め、建設副産物の適正処理、地球温暖化の防止を推進する
2. 環境保全に関わる技術開発・拡販を推進する
3. 環境関連法令及び社会的な要求事項を順守する
4. 環境方針を全従業員及び構成員に周知するとともに環境情報の開示に努める

#### <2007年度の重点実施事項>

1. 建設副産物の適正処理
2. CO<sub>2</sub>排出量削減
3. 環境保全の技術開発・拡販
4. 環境関係法令及び社会的な要求事項の順守
5. 資源の有効活用
6. 環境に優しい社会の実現・地域の地球環境運動への参画

2007年4月1日

#### [社 是]

創意研鑽

協調親和

信用高揚

#### [経営理念]

時代の変化をビジネスチャンスと捉えて素早く対応し、社会や顧客の満足する商品・サービスを提供することで、次代の覇者を目指す

#### [行動規範]

1. 知恵を出せ、汗をかけ
2. 全員でやれ、とことんやれ
3. 情熱を持って、あきらめな

#### [経営基本方針]

1. 安全第一主義の徹底を図る
2. グループ経営の源泉である受注量を確保する
3. 徹底したコストダウンの実行によって、安定経営に必要な利益を確保する
4. 環境に優しい社会の実現に寄与する
5. CSR活動を通じて企業価値の向上を目指す

# 環境マネジメントシステム

## より効果的な環境経営のために、品質と環境マネジメントシステムを統合

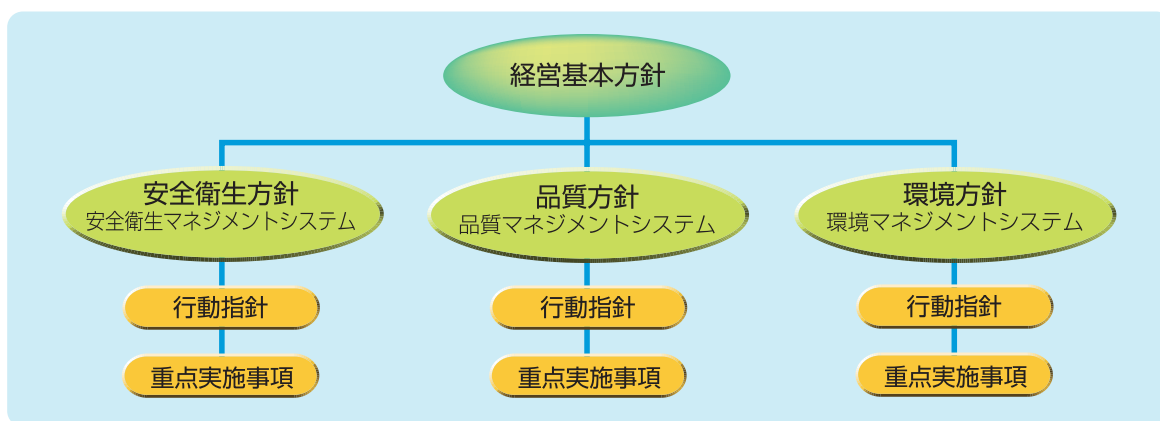
当社は、その社是に代表される「創業の精神」を継承し、経営理念と、役職者一人ひとりが「日本道路グループの目指す姿」に向かってどのように行動するかを定めた行動規範のもとで、経営基本方針を策定しています。

経営基本方針は、年度毎に策定し、経営基本方針に基づいた「安全衛生・品質・環境方針」において行動指針

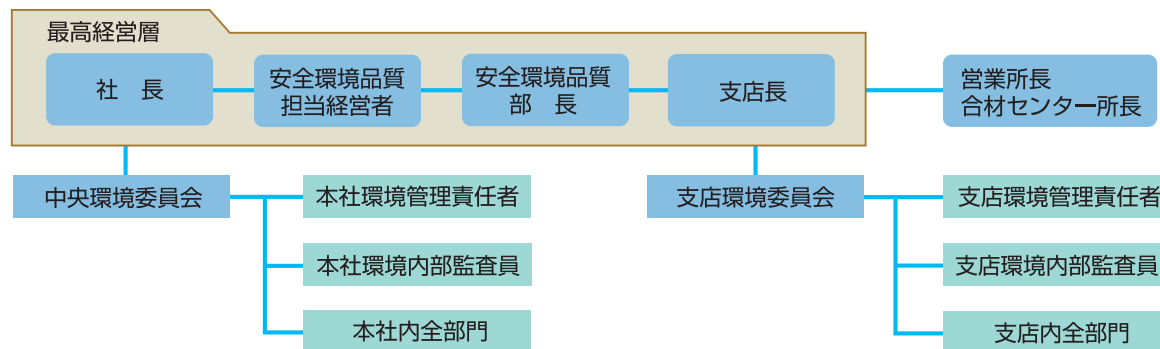
および重点実施事項を定め、マネジメントシステムを実行し、PDCAサイクルを回して継続的改善を図ります。

さらに、品質と環境を統合し、マネジメントシステムの一層の効率化を図っています。

### ■マネジメントシステム



### ■環境マネジメントシステム運営体制



### ■安全衛生マネジメントシステム

「安全衛生計画」を策定し、安全衛生マネジメントシステムに基づき、事故・災害の撲滅を図り、安全で快適な職場環境の確保を目的として活動し、安全衛生管理レベルの向上を目指します。

(コスモスの全社運用開始2005年10月)

### ■品質マネジメントシステム

所属の経営環境・エリアの市場特性を十分に把握分析した上で、品質マネジメントシステムに基づき顧客の信頼と満足や社業の安定的発展を目指すよう、マネジメントを的確に実施します。

(ISO9001の全社統合化完了2004年8月)

### ■環境マネジメントシステム

「3ヶ年全社環境計画」のもと「環境計画」を策定し、環境マネジメントシステムに基づき、年度毎の環境負荷の削減目標や活動の推進目標を設定し、環境保全活動を実施します。

(ISO14001の全社統合化完了2007年8月)

## 2006年度環境目標達成状況と2007年度環境目標

部門	環境目的	環境目標 (2006年度)	実績値 (2006年度)	評価	環境目標 (2007年度)
製販部門 (製品グループ・支店製販部)	建設副産物の適正処理 ・不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ	①不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ	・重大指摘：なし ・修正指摘：悪臭、水質、消防、産廃で各1件	△	建設副産物の適正処理 ①不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ ②3Rの推進 混合廃棄物の削減(前年比5%減)
	CO <sub>2</sub> の削減 ・1990年を基準年として2010年までに6%以上削減する。	①燃料使用量低減 全社燃費低減-前年比0.5%低減	・前年比0.5%低減	○	CO <sub>2</sub> の削減 ①燃料、電気使用量低減 全社燃費低減-前年比0.2%低減 ②プラント積み込み機械等CO <sub>2</sub> 削減活動 アイドリングストップ実施-プラント実施率99%以上
	資源の有効利用 ・再生合材に占める再生骨材混入率を2010年まで0.5%つつアップする。	①1t当たりの再生骨材混入率アップ ・全社混入率目標値0.5%アップ	・1.0%達成	◎	資源の有効利用 ①1t当たりの再生骨材混入率アップ 全社混入率目標値0.5%以上アップ ②コンクリート処理の拡大 コンクリート塊処理量-前年比5%増
施工部門 (工事グループ・機械グループ・支店工事事務)	建設副産物の適正処理 ・不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ	①不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ	・不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ	△	建設副産物の適正処理 ①不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ
	3Rの推進	①CO塊、AS塊の再資源化率(99%以上維持)	・AS塊100%達成 ・CO塊100%達成	○ ○	3Rの推進 ①CO塊、AS塊の再資源化率(99%以上) ②木材の資源化率、縮減率(90%以上) ③混合廃棄物の削減(前年度比5%減)
	CO <sub>2</sub> の削減 ・施工現場でのCO <sub>2</sub> 削減	①アイドリングストップ実施率 ・国交省工事99%以上 ・調査全現場95%以上	・99.7%達成 ・97.4%達成	○ ○	CO <sub>2</sub> の削減 ①アイドリングストップ実施率 ・国交省工事100% ・調査全現場98%以上
	汚染の予防	①社有機械の低公害型への移行 ・排ガス抑制57.8%以上 ・低騒音対策61.3%以上	・55%達成 ・60%達成	△ △	汚染の予防 ①社有機械の低公害型への移行 ・排ガス抑制60%以上 ・低騒音対策65%以上
技術開発 (技術部・技術研究所)	環境保全の技術開発・拡販に努める	①環境保全に関する新規テーマの採用 ・1件以上 ②環境舗装技術提案 ・12件以上	・表面処理工法1件の実施工の達成 ・19件達成	○ ○	①環境保全に関する新規テーマの採用 ・1件以上 ②環境舗装技術提案 ・12件以上
営業部門 (技術営業グループ・営業グループ・支店営業部)	環境保全の技術開発・拡販に努める ・環境負荷低減工法の拡販	①環境関連工法受注各工法の受注面積 主要7品目(シャットファルト、CFA他) ・500,000㎡	・410,000㎡ ・82%達成	△	環境保全の技術開発・拡販に努める ①環境関連工法受注各工法の受注面積 主要9品目(シャットファルト、CFA他) ・520,000㎡
事務部門 (総務グループ・支店事務部)	資源の有効利用				資源の有効利用
	・再生紙の使用 ・グリーン購入	①全社コピー再生紙使用率 ・96%以上 ②全社エコ製品占有 ・81%以上	・100%達成 ・87.9%達成	○ ○	①全社コピー再生紙使用率 100% ②全社エコ製品占有 82%以上 ③事務所電力の削減 ・全社前年比1%以上

注：青字は2007年度からの追加実施項目

評価◎は優、○は良好で目標の100%以上、△は改善要で目標の80%~100%、×は未達成で目標の80%未満

# 地球温暖化防止への取り組み

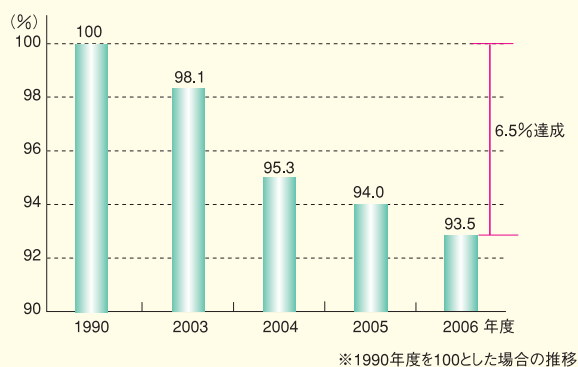
## 製品販売部門からの温暖化防止へのアプローチ

### 製品販売部門のCO<sub>2</sub>削減の取り組み

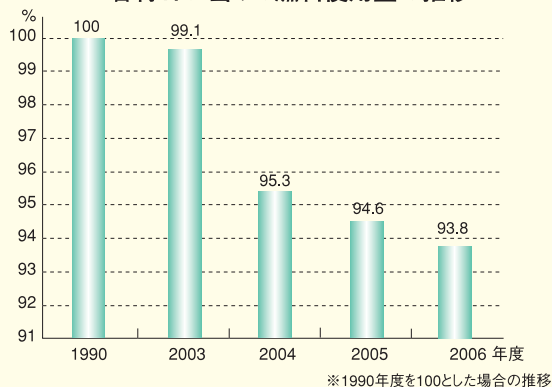
当事業の大きな柱である製品販売部門におけるCO<sub>2</sub>削減目標は、2010年で1990年の6%削減としていました。この目標は2005年度に達成され、2006年度は6.5%と順調に推移しています。

削減の限界に近づいていますが、設備投資および新しい技術の導入により今後もCO<sub>2</sub>削減を継続的に図っていきます。

合材1トン当りの燃料によるCO<sub>2</sub>の排出量の推移



合材1トン当りの燃料使用量の推移



### 貨物輸送時の環境負荷への取り組み

第一次3ヶ年環境計画で、製品販売部門と施工部門でCO<sub>2</sub>削減に積極的に取り組んできましたが、川崎アスコンでは更なる向上を目指し、モーダルシフト(自動車輸送から船舶輸送への切り替え)を実施しています。

エネルギー資源の有効利用と地球温暖化防止という双方の要請で成立した「改正省エネ法」により、経済産業省から4月に特定荷主としての指定を受け、積載率の向上と輸送ルート選定並びにエコドライブ推進により輸送効率のアップを図りCO<sub>2</sub>削減に努力しています。

2006年度	輸送量……………112,062(千トンキロ)
	CO <sub>2</sub> 排出量……………13,218(t-CO <sub>2</sub> )



船舶輸送による材料の搬入出



船舶への材料搬入出施設



## 工事部門での温暖化防止活動

### 施工現場でのCO<sub>2</sub>削減活動

2002年度から施工現場でのCO<sub>2</sub>削減活動として、

1. アイドリングストップ運動
2. キー抜き取り運動

を実施しています。

活動初期に比べて、実施率が高くなり2006年度ではアイドリングストップ実施率は全体で97.4%、キー抜き取り率95.5%まで向上しており、今後も継続的に実施していきます。



キー抜き取り用キーキャッチャー



アイドリングストップ運動用ポスター

### 公害問題軽減への積極的取り組み

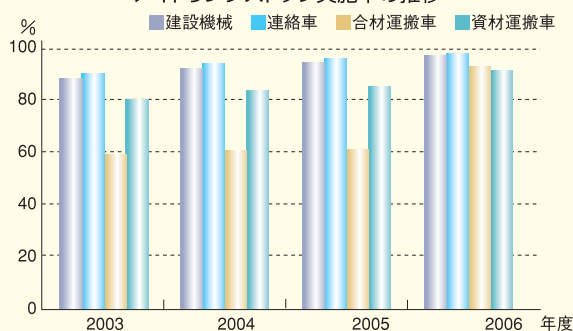
排気ガスや騒音・振動など、施工現場から発生する公害問題へも積極的に取り組んでいます。

1. 低公害型の施工機械の使用
2. 施工機械を低公害型に順次切り替え

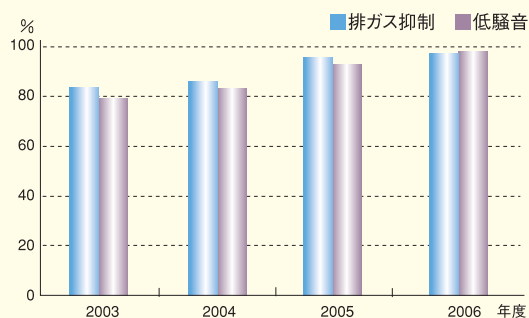
など、環境負荷低減に向け、取り組みの成果が着実に表れています。



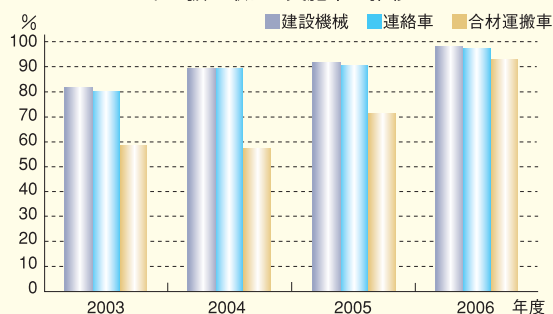
アイドリングストップ実施率の推移



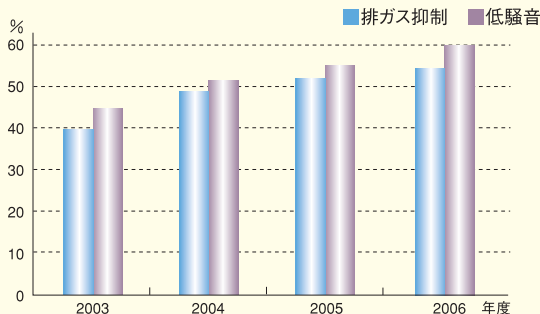
低公害型施工機械の使用率推移



キー抜き取りの実施率の推移



社有機械の環境対策実施率の推移



# 資源の循環・有効利用への取り組み

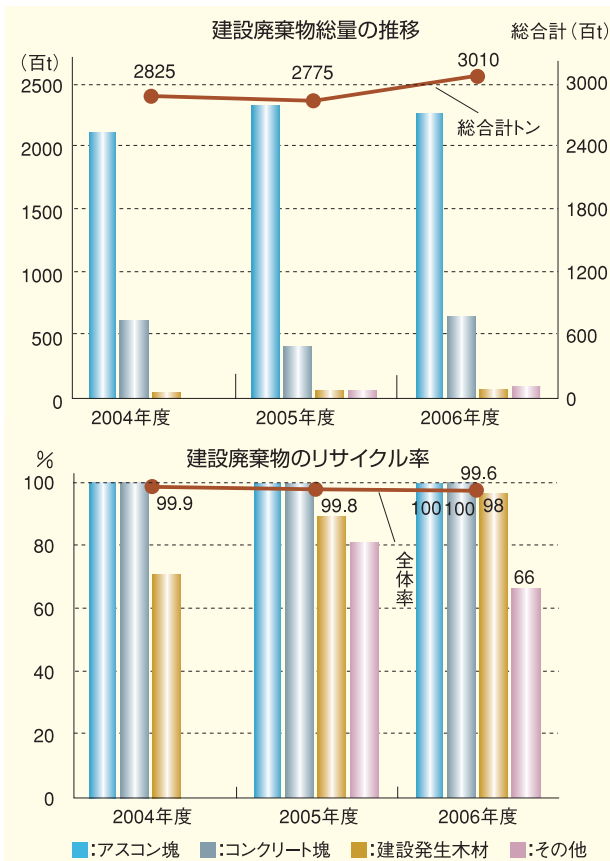
## 資源の有効利用へ向けた3Rの推進

### 工事部門における資源の有効利用

建設副産物の適正処理を環境方針の最重要課題とし「法規制の点検と順守により不適正処理に起因する重大指摘件数ゼロ」を目標に ①廃棄物処理委託契約の事前締結徹底と manifests の管理 ②関係法令の順守の巡回指導と教育実施等の施策のもと3Rの推進に努めています。

当社の事業活動において、工事現場・工場・事務所から様々な建設廃棄物が発生します。排出事業者としての社内体制の確立と関係事業者との連携並びに適正処理体制を構築し、ここ3ヶ年の建設廃棄物全体のリサイクル率は、ほぼ100%を維持しています。

今後は、急速に進む都市再開発とメンテナンス時代に入り多様化した建設廃棄物の発生が予想されますが、分別の更なる徹底を図り、アスコン塊、コンクリート塊のリサイクル率100%を維持しながら、混合廃棄物の発生量縮減(対前年比5%減の継続)と木材のリサイクル率・縮減率アップを課題として取り組み、最終処分量の縮減に努めます。

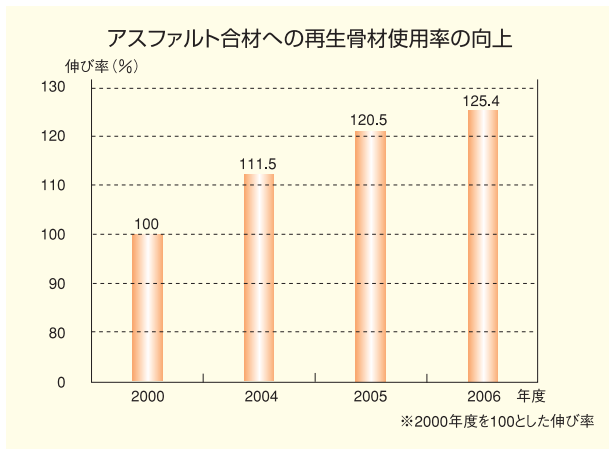
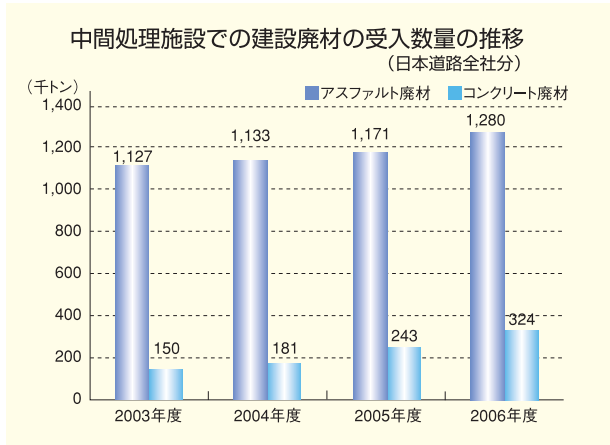


### 製品販売部門における資源の有効利用

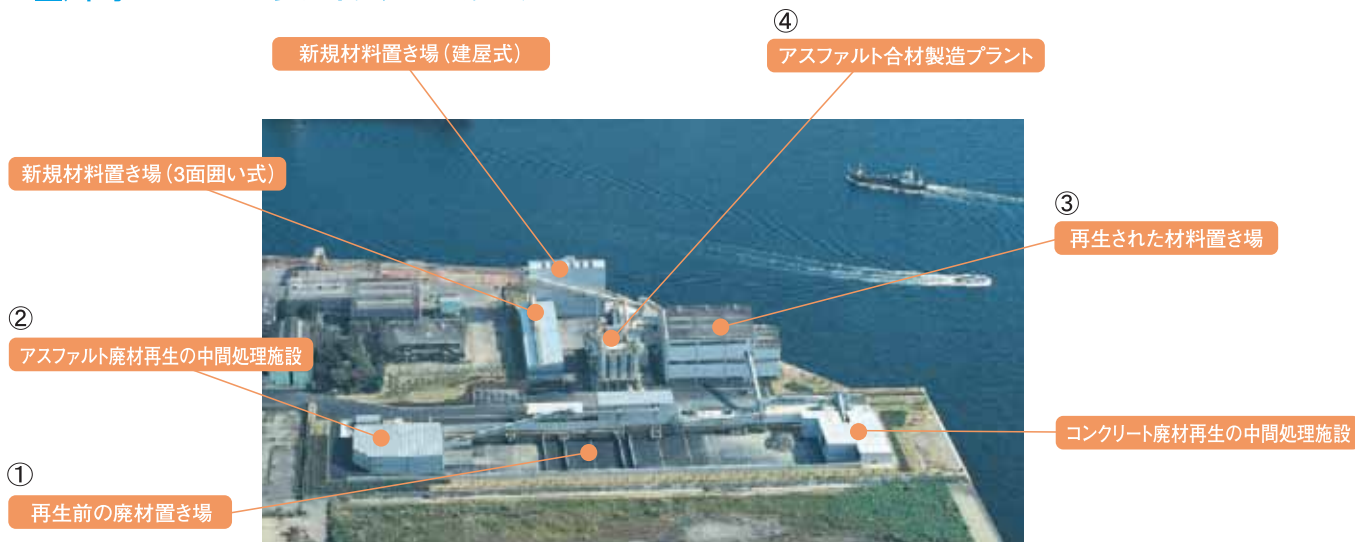
道路やビルなどの工事現場から、大量の建設副産物が発生しています。これらの副産物の循環・再利用は、限りある資源の有効利用として今や欠かせない社会的ニーズとなっています。

当社も3Rミッションの一翼を担い、中間処理からリサイクル製品、アスファルト再生合材の製造、販売を積極的に押し進めており、2006年には最新鋭の再生プラントを稼働させました。(3社JV)

中間処理施設での建設廃材受け入れは年々増加しており、再生された骨材は再生路盤材や再生アスファルト合材に使用され、その使用率は順調に伸びており、リサイクルに貢献しています。



## 川崎アスコンのリサイクルシステム



① 再生前の廃材置き場



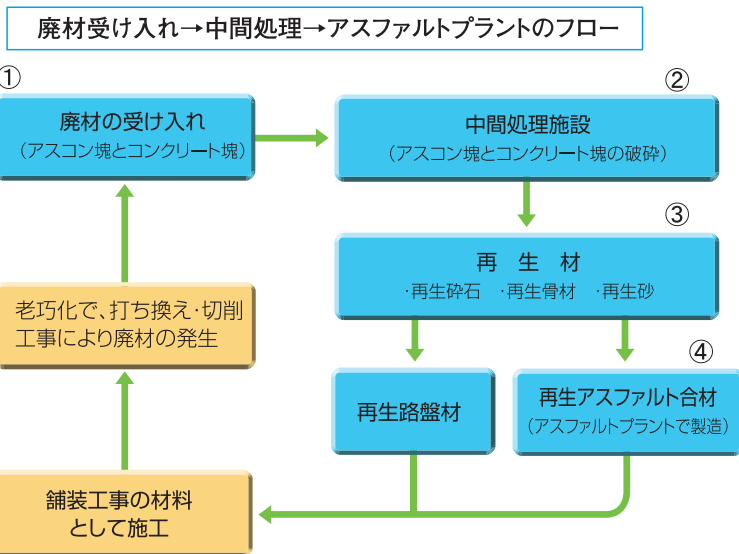
② アスファルト廃材再生の中間処理施設



③ 再生された材料置き場



④ アスファルト合材製造プラント



# 道路からの環境改善へのアプローチ

## Sustainability (今あるものをより長く使う)

今ある道路をより長く使い、資源を大切にするための工法として様々な工法を研究・開発しています。

### マイクログリッブ

骨材、急硬性改質アスファルト乳剤、セメント、水などからなるスラリー状の混合物を敷き均す常温速硬性の薄層アスファルト舗装です。常温施工なのでCO<sub>2</sub>削減にも貢献します。



### フォームド・ドレッシング

フォームド(泡状)化した特殊改質アスファルトとプレコートチップ骨材を同時に散布し、付着させる超薄層表面処理工法です。

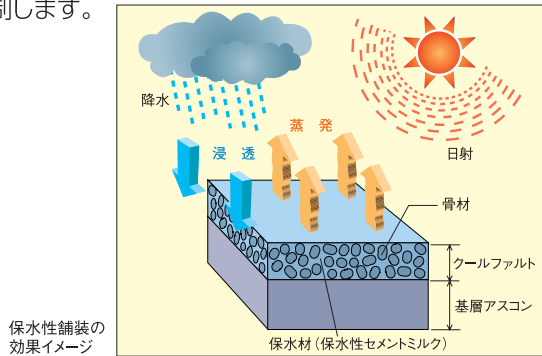


## ヒートアイランド現象の緩和

路面温度の上昇を抑えヒートアイランド現象を緩和し、夏季の快適な空間づくりに寄与します。

### クールファルト

ポーラスアスファルト混合物の空隙に保水性を有する鉱物質微粉末を充填した保水性舗装です。舗装体内に保水された水分が蒸発する際の気化熱により路面温度の上昇を抑制します。

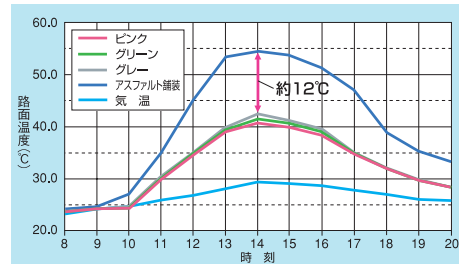


### シャットファルト

アスファルト舗装などの表面に遮熱材を付着させることにより、路面温度の上昇を抑制し、舗装体内の蓄熱量も減少させます。



■路面温度の測定例



## 騒音対策

交通騒音低減に向けて、舗装からのアプローチとしての研究を行っています。

### 多機能型弾性舗装

廃タイヤを粉砕したゴム粉と珪砂を骨材として使用し、これらをウレタン樹脂で接着硬化させた舗装です。現場の測定では既設の密粒度アスファルト舗装に比べ40km/hで10dB (A) を超える騒音低減効果が得られており、実用化に向けての研究開発を行っています。

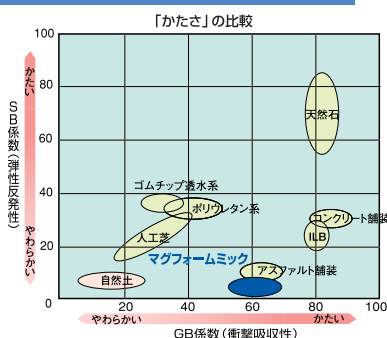


## 土を使った舗装

自然土の暖かさ、風合いを生かし、土の持つ保水性や浸透性によりヒートアイランド現象の緩和や雨水循環型社会に寄与します。

### マグフォームミック

自然土（マサ土等）とマグネシウム系セメント等を混合した土系舗装です。吸水性骨材の併用により、浸透保水性を有します。



## CO2排出量の抑制

アスファルト混合物を製造する際の温度を下げることでCO2排出量抑制に寄与する技術です。

### セミホットペーブ

セミホットペーブは、製造・施工時の温度を、通常のアスファルト混合物よりも30℃程度低下させることを可能にした中温化アスファルト舗装です。製造時に排出されるCO2の量を約16%削減することができ、環境保全に貢献します。

項目	中温化混合物	通常混合物
製造温度(℃)	130	160
CO2排出量 (c-t/1ton)	4.8×10	5.7×10
CO2削減率(%)	84.2※	—

※通常混合物におけるCO2排出量を100%とした場合の値  
 試算対象：ストレートアスファルト使用密粒度アスコン  
 試算条件：骨材含水比4%、外気温30℃



## リサイクル

リサイクル技術が循環型社会に貢献しています。

### エコブロックシリーズ

発泡スチロールを使用した『Eps』、溶融スラグを使用した『Hai』、廃瓦を使用した『瓦』、碎石廃土・鉄鋼スラグ・上水汚泥・碍子をセラミック技術で煉瓦状に固めた『Rng』、駐車場などの芝植生用ブロックの『Grn』と様々なリサイクル材を活用しています。



### 土壌浄化

当社のアスファルト混合物製造方法を応用した技術が油汚染土壌の浄化に効果を発揮します。



# 環境改善に向けて多方面へのアプローチ

## 公共交通施設

公共交通機関利用の促進は、環境負荷低減にも繋がります。  
より快適に公共交通機関を利用していただくために、当社の技術が寄与しています。

### LR T (次世代型路面電車システム)

公共交通施設を利用し、マイカーでの移動を少なくすることは、ガソリンの使用を抑えCO<sub>2</sub>排出量の抑制につながっています。



### 完全付着型コンクリートオーバーレイ

空港のエプロン部等に多く使用されているコンクリート舗装。この工法では新旧のコンクリートの一体化により、表面性状と補修・構造強化を図ります。従来工法に比べて大幅にCO<sub>2</sub>排出量、廃材発生量を削減できます。



## ユニバーサルデザイン

高齢者や障害を持つ人など、すべての人が不自由を感じることなく快適に暮らせる街づくりに、当社の技術が貢献しています。

### レインボーフラッシュブロック T

視覚障害者誘導ブロックに装着されたLEDが暗くなると自動点灯し、弱視者や高齢者の視線誘導に寄与する新しい視覚障害者誘導ブロックです。



### ブロックボイス

感圧センサを組み込んだ警告ブロックに乗ると埋設したスピーカから現在地、各方面などの案内をする音声案内装置です。



### レインボーサインシート

屋内外を問わず路面から情報を発信する、路面標示シートです。



### レインボーミック SG

カラーゴムチップと自然砂を使用した自然色弾性舗装です。ソフトな歩行感、透水性があり、車椅子でも快適に走行できます。

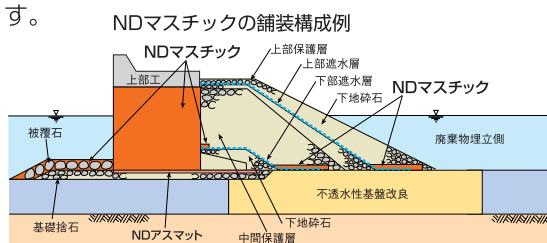


## 廃棄物処理場

道路で培ったアスファルトに関する技術が、安全な廃棄物処分場の建設に活かされています。

### ND マスチック

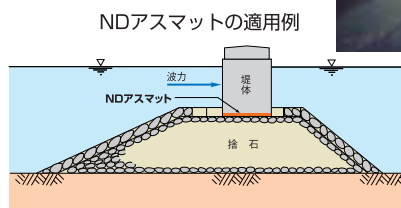
水利構造物に適用する、アスファルト混合物の流し込み工法です。遮水性に富んだ構造物形成の一助となる工法です。



廃棄物護岸等の管理型護岸の遮水、各種構造物取り合い部の遮水、ケソン目地やコンクリート護岸等の遮水および、目地部からの土砂流出防止

### ND アスマット

陸上でプレキャストマット状に成型したもので、河川、海岸、海洋まで幅広く水利構造物等に使用されています。



堤体と捨石との摩擦増大  
※捨石マウントの不陸が大きくても適用可能

## 河川環境

自然環境の保護、自然災害を抑制するための工法を研究・開発しています。

### 侵食コントロールブランケット

欧米で最も実績のある侵食抑制製品システムで、水辺の自然環境保全と流水域での侵食防止をバランス良く保つことができます。急勾配の斜面や流速の早い河川、ダム、池、湖沼等の適用で効果を発揮します。



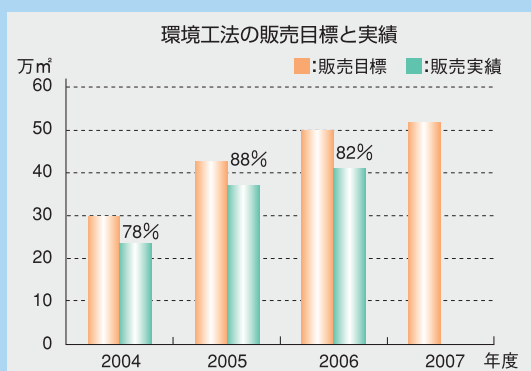
### ND-UST システム

PP樹脂製ブロックを組み立てて、地下埋設水槽を形成する雨水流出抑制システムは、都市型洪水等の総合治水対策に寄与します。また、PP樹脂製ブロックはリサイクル、リユースも可能です。



## 環境工法の拡販

環境工法の販売目標はグラフのオレンジです。工法の種類は、ヒートアイランド対策工法、砕石マスチック舗装、土系舗装、自然色弾性舗装、雨水貯留槽、ロングパイル人工芝、薄層維持修繕工法などですが、年度ごとに見直しを行なっています。環境工法の販売目標に対する販売実績はグラフのグリーンです。販売実績は2004年度から2006年度の3年間で着実に増加していますが、目標には達していません。環境工法の拡販による環境改善のためにも、目標管理を徹底して2007年度の目標達成を目指します。

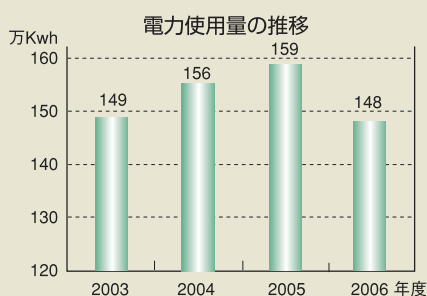
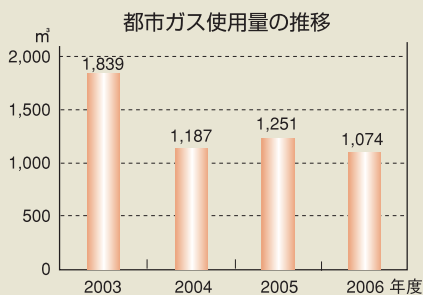
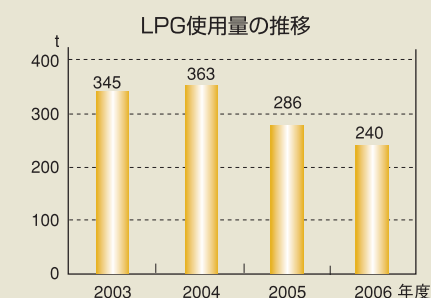


# オフィスにおける環境保全活動

## オフィスワークによる省エネ・リサイクル等の取り組み

### エネルギー使用量

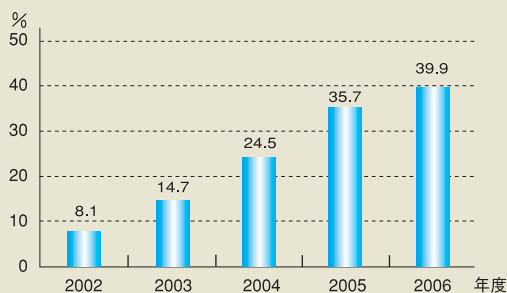
当社では、2003年度より業務で使用する電力、ガス、水道水などの使用量を削減する目標をかかげ、エネルギーの節減を進めてきました。クールビズ、ウォームビズ、節電等に取り組み、チームマイナス6%にも参加し、個人の意識改革を進め、省エネに取り組んでいます。



### 業務車両の低公害化への取り組み

業務で使用する社有連絡車について、平成15年に、新規発注車両は「低排出ガス」及び「低公害」に認定された車両とするよう基準を改正し、地球環境に影響を及ぼす公害の軽減につとめています。

「低排出ガス」及び「低公害」型の連絡車の占有率の推移



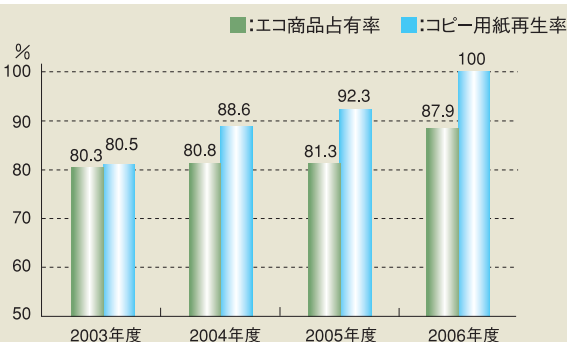
### リサイクルへの取り組み

2004年より、現場で着用する作業服へのリサイクル素材の導入に取り組み、以来、試作品を製作し検討を重ね2007年2月に、再生PETを利用したポリマーリサイクル繊維を使用した作業服として、エコマーク商品に認定され、2007年5月より、全社で使用しています。



### グリーン購入率とコピー用紙再生率の向上

当社ではISO14001導入以降進めているグリーン購入は、エコ商品占有率で87.9%、コピー用紙の再生紙使用率で100%となり、着実に向上しています。





# 社会的貢献への取り組み

## 社会と共生する身近かなところから地域貢献

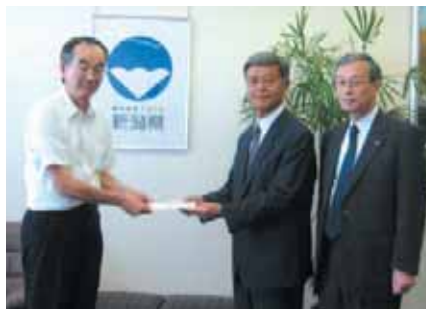
### 平成19年新潟県中越沖地震への対応

2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震への対応として、当社は同日付で北信越支店内に対策本部を設置、被災直後から交通インフラの復旧に向けて、柏崎市内約20箇所の緊急道路補修作業に着手しました。三条市内においても、同じく道路施設の緊急点検作業に協力しています。



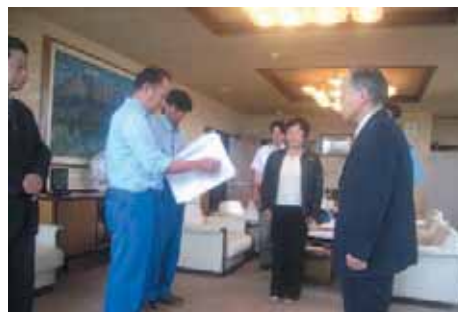
その後、行政からの出動要請、(社)日本道路建設業協会・北陸支部としての現地対応(国交省北陸地整からの要請に基づく国道8号線・11号線の応急復旧、仮設トイレ設置100基)に協力しております。また、災害義援金を新潟県に寄付したほか、ボランティア休暇制度を制定し、社員の社会・環境貢献活動を積極的に支援しています。

今後は被災地域の1日も早い立ち直りに向けて、道路建設業者として地域社会への協力・貢献体制を一層維持、整備していく所存です。



### 子どもたちの安全に役立てて!合図灯贈る

当社山陰営業所(松江市)は、国道9号線長久舗裝修繕工事に伴う地域貢献として、子どもの安全を守る活動に活用するため合図灯50本を大田市防犯協会に贈呈しました。



大田市役所で行われた贈呈式

### ボランティア・サポート・プログラム

ボランティア・サポート・プログラムの実施団体として、歩道清掃・植樹帯除草・除雪等を支店長を先頭に、毎月実施しています。(東北支店一仙台市青葉区八幡1丁目~2丁目)



### 環境技術で社会への貢献

都市部の急激な環境変化で、ヒートアイランド現象や局地的な都市型水害が多発しています。この現象緩和に寄与する技術の公開検証等、技術公募に積極的に参加し、住みやすいまちづくりを目指し、環境改善技術の開発に取り組んでいます。



埼玉県のヒートアイランド対策技術公開検証に参加し、埼玉県より授与された感謝状。

# 社会とのコミュニケーション

## オフィシャル・ホームページによる 環境関連技術・環境関連トピックスの情報開示

当社では、オフィシャル・ホームページを通じて、環境関連技術・工法の紹介および最近の動向・話題についての情報を発信しています。

こうした情報発信のほか、2007年度からは環境報告書の内容を当該ホームページにおいても広く公表し、より多くのステークホルダーの方々との環境コミュニケーションを促進してまいります。

<http://www.nipponroad.co.jp/info/portal05.htm>



## 近隣住民とのコミュニケーション

当社の全国に配置しているアスファルト合材製造工場では、環境に配慮し、豊かな自然を次世代に引き継ぐ循環型社会形成のために、道路改修工事などで発生する建設副産物（アスコン塊・コンクリート塊）の再利用（リサイクル）に努めています。

その処理を行う中間処理施設については、設備の新設・更新に際して、地元関係者を招いた施設の公開（見学会）を行っております。

今後とも、環境に配慮した最新鋭プラントの整備を進め、地域の皆様のご理解とご協力を得て、循環型社会の形成と地域振興に役立てていきます。

また、大型の工事現場においてはホームページを開設し、担当者、工程、進捗状況等を公開して、近隣住民の方々とのコミュニケーションの一つとして活用してまいります。



## 展示会における環境工法の展示

当社は、環境に優しい工法の普及および採用拡大のため、展示会において環境関連工法の展示を行っています。

特に、バリアフリー対策、交通振動対策、都市型洪水対策の展示に力を入れています。



EE東北2006展

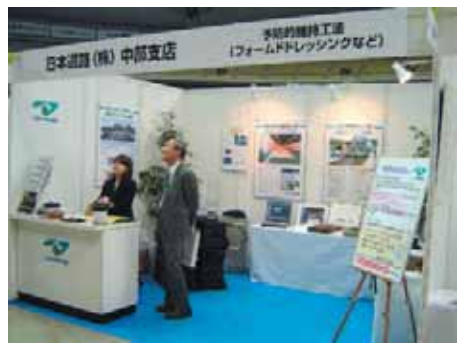
年 度	展示会名	展示工法
2006	建設技術展示館	ヒートアイランド抑制対策
	みらい国土フェア 2006	・クールファルト
	ハイウェイツテクノフェア 2006	交通安全対策
	ゆきみらい 2007 in 会津	・マイクログリップ ・ゴムマスチック ・アメリウレタン
	しまね建設技術展 2006	省資源・リサイクル促進
	LRT国際ワークショップ	・レインボーウッドMg ・エコブロックシリーズ ・エコファルトHai
	建設技術フェア 2006 in 中部	バリアフリー対策
	エコグリーンテック 2006	・ブロックボイス ・レインボーサインシート
	E E 東北 2006	都市型洪水対策
	とやま環境フェア 2006	・ND-USTシステム
国土建設フェア 2006	交通振動対策	
	ほか	・樹脂固定軌道(LRT用制振軌道)
		生態系保全
		・侵食コントロールブランケット ・マグフォームミック



2005 技術フェア in 徳島展



みらい国土フェア2006展



建設技術フェア2006 in 中部展



関東建設技術フェア2006展



道からはじまる街づくり

## 日本道路株式会社

〒105-0004 東京都港区新橋1-6-5 TEL.03-3571-4891 FAX.03-3572-1742  
URL <http://www.nipponroad.co.jp/>



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

日本道路はチームマイナス6%に参加しています

